

昔の学生と今の学生が、一緒に受験するではありません。
「見当外れな結論」を引き出す牧田質問。
世間話レベル以下の「恥ずかしい」質問。

この議員の特徴の1つは、「今の学生の学力が下がってる（自分の時と比べて）」と、特別に強調することにあります。その発言の中で、トンチンカンな理屈を述べています。彼はこう言ってます。

（牧田発言）

「偏差値というのは、その世代、例えば中学3年生段階の受験生の中で、自分はどの位置にあるかということはおわかりいただけますけれども、それが10年前と15年前と落ちていようが下がっていようがあまり関係ないし、
①偏差値そのものが総体の学力がかつてより、昔より落ちていることで利益を得るのは誰かと考えますと受験生なんですね。
②かつて、1日3時間勉強しなかったら入れなかった大学も総体のレベルが下がることによって2時間勉強すれば入れちゃうと言う事になってしまい
ますよね。・・・③（学力が）落ちていることが受験生や受験生の父母にとって利益になること、考えすぎかも知れないけれど・・・」（平成22年度12月議会）

なんと『奇妙な理屈』を、堂々と言うものだ。記録に残るものだと思います。

まずは解説しますが、1行目から3行目までの偏差値の説明は間違い有りません。

しかし、4行目以降の発言の意味がわかりません。意味をなしていません。
間違っていると思います。

まず、1点目。まず、「偏差値」と「総体の学力」は、同じではありません。

また、『総体の学力』を各教科ごとに限定しても「合計点の平均」としても、話の向きは、何ら変わらないと思いますので、ここでは、『総体の学力』を『教科毎若しくは合計点の平均の学力』としておきます。

2点目。もし仮に、牧田議員の言うように、今の学生の「総体（平均）の学力」が落ちていると仮定した場合、その要因は、全ての学生の学力に影響を与えているものだという前提に立ちます。
すなわち、国の政策を前提にしなければなりません。
例えば、国の政策として行われた『ゆとり教育』等の影響があったかなかったかなどです。

ただし、その場合、学力低下に陥ったのは、基本的には、全ての学生ということが前提になります。ほんの一握りの突出した秀才は除外します。彼等は、国の方策がどんなに変わろうとほとんど影響を受けない生徒達だからです。

高校入試でも、大学入試でも一部の特別な突出した生徒・学生を除けば、全ての学生は、国の政策の影響を受け『その時代の平均的な学力』の中で受験競争を強いられることになります。

従って、一般的に言えば、同じ時代の模擬試験に示されたテストの偏差値の高い学生・生徒が、いわゆる有名大学・有名高校に合格します。

ここに生じている学力差は、あくまでも、同じ時代に生きる学生間の相対的な学力差です。ここには「同じ時代の学生同士の競争の結果」が反映されます。

牧田議員が言うところの「学力のついていた10年前の学生」と「今の学生」が、一緒に受験するものではありません。

あくまでも、同じ時代の今の学生同士の試験による競争です。

また偏差値は、生徒が取った点数が、受験した生徒の中でどれくらいの位置にいるかを表す指標であるので、個々の試験の難易度の違いに左右されません。しかし同時に、受験における合格可能性をも生徒の学力判定のために利用されます。従って、いつの時代の受験生も、より高い学力をつけ偏差値の高い成績を残し合格率を高めるために、人よりも多く時間をかけ受験勉強しなければなりません。

牧田議員が言うように、「②かつて、1日3時間勉強しなかったら入れなかった大学も総体のレベルが下がることによって2時間勉強すれば入れちゃうと言う事になってしまう」事など、起こりえないのです。

そんなことが起こりようがありません。かつての生徒と今の生徒が同じ時代に同じ大学を受けるわけではありません。

牧田議員の話は、起こりえない架空の前提で『作り話』をしているだけです。

従って、③（現在の学力が）落ちていることが（現在の）受験生や受験生の父母にとって利益になる」ことなどなどは、全くあり得ないのです。

繰り返しますが、同じ時代の生徒同士の受験競争なのです。

「かつての生徒」と『今の生徒』の競争ではないのですから。

こうした判断に関して牧田議員は「考えすぎかも知れないけれど・・・」と述べていますが、それは反対です。考えが、かなり足りなかったのです。

それは、『偏差値』や『学力低下の要因』や『受験競争は同時代の子ども同士の点数上の競争である』等々の基本的事象の理解の欠如と事実誤認による荒唐無稽な前提での論理矛盾による発言だったのです。

牧田議員は、何かと、『今の学生・生徒は、学力が落ちている』と言いたげですが、時代的に言えば、おそらく牧田議員が受験したであろう『共通1次試験』で合格した学生に対し、当時、『以前の学生に比べれば、考える力が無い。』とか、『学力が下がっている』などと研修会の席で大学の教官が言っていたのを思い出します。

それは、マークシートによる受験に対する批判の延長で行われた批判でしたが、私は、「そんなこともあるまいに」と思いながら聞いた記憶があります。

『以前の学生の方が学力がある』と言う発言の中には、時として正確なデータに基づかなかったり、自分の学力の高さを言いたいが為に（ある種の虚勢の為に）述べる人がおりますが、何の意味も持ちません。

実際の能力・実力は、その職業の、議員であれば、議員としての『調査力』『分析力』『まとめる力』と、そして何よりも、社会正義に立って、町の実態を正しく見ることから始まります。事の善悪を判断できるかどうかに係っているのです。町民の付託を受けるとはそういうことです。